

2024年度 神石高原学園 神石インターナショナルスクール 教育課程特例校評価(学校関係者評価)

JINISの教育活動	評価区分	実施内容・状況
	教育活動	- 学年・個人ごとのきめ細やかな対応による授業・カリキュラムが組まれており、年を追うごとに児童の大きな成長が見られる。 - 学校内外での授業・活動状況をSNSで随時配信。デジタルポートフォリオの共有により保護者は児童の活動内容を把握でき、週1回のビデオコールでも話題にできる。 - 外国人・日本人教職員の業務が分断されず、共有されることで児童により良い影響を与えている。 - 進学に向けて、英語や日本語で自分の考えを適切に伝える力をさらに伸ばすことが期待される。 - 進学先の面談についても計画的に実施されつつあり、進路について相談しやすくなっている。 - 児童数の増加により、より多くの子どもたちの学習機会を拡充してほしい。 - 子どもが落ち着いて自宅に戻った後も自立して行動し、自分のことは自分でする様子が見られる。 - 年3回の保護者参観イベントでは、英語の発音や情操教育の成果が確認され、高評価を得ている。 - 昨年度から開始したParents Weekでは、学校の普段の様子や食事風景を保護者が直接見ることで、安心して子どもを預けられることを理解できる機会となっている。
	教育課程特例校	- 学校としての教育スタンスが確立され、安定感が出てきている。 - 英語学習において、スピーキング・リスニングは向上しており、今後はリーディング・ライティングの伸長も期待される。 - イギリス・スイスなどの海外旅行や学校見学を通じて、児童は将来の視野を広げられている。また、卒業児童がすでに海外にいて、旅行時に会うことができることで子供たちも進学先として海外を自然に見据えることができている。 - 海外インターンとの交流により、英語をより身近な言語として体験できている。 - 課題として、インターナショナルスクールへの「英語がペラペラになるべき」という強い偏見が一部にあり、バイリンガルスクールとして日本語教育や日本の文脈の重要性が軽視されることがある。この点について、母国語としての日本語や日本の文化・文脈の理解を保護者や外部に伝えていく必要がある。